

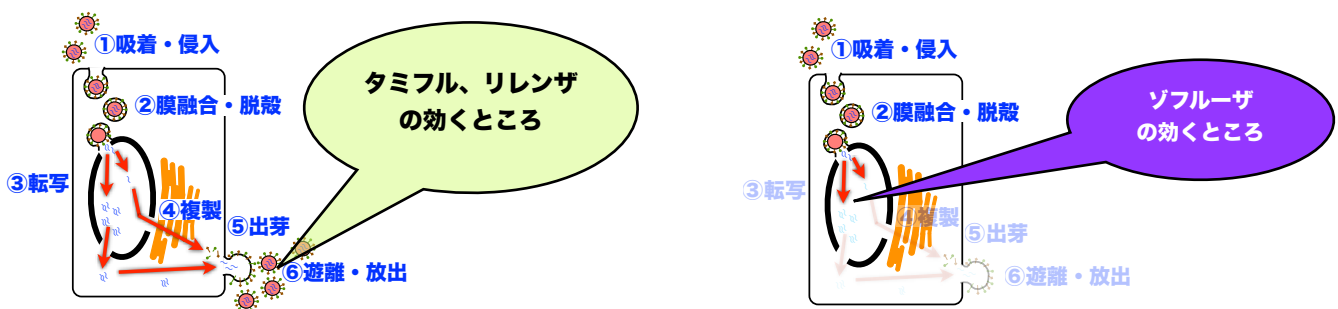
## 今年度 インフルエンザ治療薬「ゾフルーザ錠」の採用は見合わせます

2018年3月にインフルエンザ治療薬として認可された新薬として、「ゾフルーザ錠」という薬があります。これまでの治療薬（オセルタミビル（タミフル）、ザナミビル（リレンザ））とは異なる働き方をするお薬で、ネットニュースやテレビの情報番組等では「服用は1度だけ」というメリットが強調され、取り上げられていますが、新薬であるため価格が高く設定されており、保険薬局でのお支払い金額は高くなります。

現在公表されている「ゾフルーザ錠」のデータをみたところ、「体内のインフルエンザウイルスを退治する力は1日目から発揮」されますが、「諸症状の改善度はオセルタミビル（タミフル）と同等（＝早く治る訳ではない、登校停止期間が短くなる訳ではない）」であることがわかりました。

さらに「ゾフルーザ錠」の働き方について詳しく調べたところ、「免疫応答反応」に必要な「インフルエンザウイルスのタンパク質（＝ウイルスのかけら）」が作られないようにする仕組みのため、シーズン中に再度 または 次のシーズンに 同じ型のインフルエンザにかかってしまう可能性が否定できていません。

※「ワクチン」は「インフルエンザウイルスのタンパク質（＝ウイルスのかけら）」が成分のため、これを事前に接種しておくことにより体内で「免疫応答反応」がおき、インフルエンザにかかりにくくする（人によってはかからない）効果があります



まだ世の中での使用量も少ないため、有効性だけでなく、副作用についても情報が十分集まっているとは言えず、以上の理由から、当施設では今年度「ゾフルーザ錠」の処方はしない（採用しない）方針としました。

診断時には、オセルタミビル（タミフル）、ザナミビル（リレンザ）、麻黄湯を中心とした処方を行いますので、ご理解をお願いします。

※今シーズンより、タミフルは後発医薬品が発売されたため、それを使用します

2018年11月